

中心市街地活性化について本欄でも述べたことがあるが、重要なので再度論じておきたい。

7日、新潟市中央区古町にあるNEXT21ビル

地下にコメリ書房が開店した。

しかしそれを報じる同日付本紙

夕刊の記事を読んで当惑した。

一読、意味不明だったからだ。

記事では同書店開店による古町活性化への期待が語られる一方、地元で懸念の声が紹介されている。「客の食い合いを引

き起こす」と既存店との競合を懸念する商店主の声とともに、「山下さんが出たときと違ってもう手を挙げて喜べる状況ではない」という商店街関

# 時々 草々

係者の意見も紹介されている。

この「山下さん」というのは旧大和新潟店ビルに出店した山下家具店のことだと思われる。なぜ

越智 敏夫 (新潟国際情報大教授)

山下は良くて、コメリは喜べないのか。それは仲間でないからだろう。

古町に以前からあった山下と違ってコメリは部

内に本社を置く。その地元企業さえ、この商店街関係者らはよそ者扱いし、出店を嫌悪しているのだ。

増加のみだと認めてしまったようなものだ。しかしその仲間の力が不十分だったからこそ古町は衰退したのでは

## 街の活性化阻むもの

外者なのである。しかし同社は三条を発祥の地とするものの現在は新潟市

つまり彼らにとつて古町の活性化とは多くの人が集まり街が賑わうこと

ないか。外部からの新規参入も振興のためには重要な方策だろう。この期

勢は愚かというより異常である。しかし同様な姿勢は他の商店街にも散見される。

ではなく、競合を排除し

おち・としお 1961年愛媛県生まれ。立教大学法学部卒。慶応大学大学院政治学博士課程修了。96年、新潟国際情報大学講師。2006年に

まいし、大規模書店の中心市街地への進出について、なぜ肯定と否定の両論併記をしなければなら

教授。専門は現代政治理論。

で市街地活性化を考えているのだろう。地元の声優先を名目にしていないのか。こちらも考え込んでしまう。

